

詠歌大概 下官集

國語研究室

第 22F 棚

第 4 号

第 冊

詠詩大概

定家

ありあけのまはしき成さきとれいよのいりさるる縁
 せうろいしるをいさよまゝいれわを詠言の詞にあつて
 けりりあまのくみららめらつし詞いさ成集をとりつてす
 元集ののちかゝるともいりたり新ちとのちなるいし
 いわをいりら并さうし以棒て成集は元集のちる
 元集ちと成集は元集のちるいし
 一いりしるし成集のちるいし
 一いりしるし成集のちるいし

此の書は、
 彼の書に
 似て、
 然るに、
 其の筆致、
 則ち異なる。

一、其の筆致、
 則ち異なる。

 二、其の筆致、
 則ち異なる。

 三、其の筆致、
 則ち異なる。

 四、其の筆致、
 則ち異なる。

 五、其の筆致、
 則ち異なる。

 六、其の筆致、
 則ち異なる。

 七、其の筆致、
 則ち異なる。

 八、其の筆致、
 則ち異なる。

 九、其の筆致、
 則ち異なる。

 十、其の筆致、
 則ち異なる。

此の書は、
 彼の書に
 似て、

然るに、
 其の筆致、
 則ち異なる。

此の書は、
 彼の書に
 似て、

然るに、
 其の筆致、
 則ち異なる。

一書法ありませし

藤原 假名物多量右枚自左枚書信一舊書房の書
物類ハ 並に如くは元人又用一清浦紙片入用一或は右
何事ハ 枚端書一浮紙心めは下官付は後模漢字一
柳本一孝子右一枚白紙後然似無筆致一如也
一娘ふ字事

他人熱果就又え違強言付事一其愚意分列於
僻事一也親疎若少一人吾月心一人心下錫道理
宛急而世一人一筆書文字一後接三千古人一
一何月来中一恨一

緒之音 せうとあを書く物用一

せうとあ せうとあ

せうとあ せうとあ

せうとあ せうとあ

せうとあ

てふをりのひのまのま

尾之音 たふののちやま書一如

たふののちやま書一如

たふののちやま書一如

たふののちやま書一如

たふののちやま書一如

たふののちやま書一如

たふののちやま書一如

たふののちやま書一如

たふののちやま書一如

たのしのまろ
たのしのまろ

え 枝 ひろし まろし

江 船 さし

英人
少
百人
め
は
る

新 まろし
越 こし
そ し

か そのま
し たのま

石塔 きんす
圓相 ま

う ろく
ま ろく

ま ろく

栢 ろく

け ろく

ろ ろく

け ろく

あ

ま ろく

こ ろく

け ろく

ま ろく

産 ろく

毛 ろく

い

ま ろく

あ ろく

あ ろく

う ろく

清 ろく

き ろく

風 ろく

し ろく

録 ろく

垣 ろく

な ろく

り ろく

ま ろく

ま ろく

わ ろく

いふ

なまひ

あひさく

いさぎぬ

あひさぬ

まふと

うふしと

おひねたの
おひねたの
又きり

いさよふの月

但書きのうらな
時々の通甲

カ

藍 あみ

川のふ

きふりう
うらまき

池のいあ

ちあのみ

よりふ常
通甲し

かーのひら

鏡をら

天のら

右筆の如く鏡の夜自照して月を照らす事

一 假若きよきわつらるる

いさよふのうらな
うらまき

あひさく
あひさぬ

いさよふのうらな
うらまき

一 書三事

知物極く人嫌有る人絶つる一末のうら行と書

いさよふのうらな
うらまき

右筆難くは鏡の如く
よちのうらな
いさよふのうらな

いさよふのうらな
うらまき

右筆の如く書三事
いさよふのうらな
うらまき

けしきあるもの下はしりし
うらふとわねあつたけり

高名も書交字紙は海字の時よつたお
りしりるれしとぬ園子其の首を首とて
次のたしと書り可くはぬ

「草子付あは符事」和漢有し

魁人

古と和奇「集卷第二」

あはしりぬ

左校書始其事す時と付伴校清物下

あはしりぬ

乞人左校治事す付事左校下下

用し若年引被付る便也

乞人下下ぬぬ人ぬ月心

神事云

甲子丁巳年余年の来し人ぬるぬ有状
其事故大略皆えと書りしと云し
と見しはしりぬるの流をく許す
し、新暦より改題し月以りし
あしりぬと云す

ゆきしゆ中人余年し集しんぬる何有欲志
敬事故大徳皆えんと書りしこととあしね弁
と見しゆいあ之流をく許しゆ字中未言
しよみ麻より造り月以よりし心は神あはし
あしりゆとゆす

